

PTA

やまがた

第37号

平成25年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 武田岳彦

山形市緑町1丁目5番87号

山形県立山形東高等学校内

TEL 023(631)0055 FAX 023(635)4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023(631)5533



県P連活動スローガン

『築こう  
子どもたちの笑顔溢れるふるさとを』

～できることからはじめよう 行動が未来をつくる～

# 「子どもたちの

# 笑顔のために」

山形県PTA連合会会長 武田 岳彦



## 常

日頃より、山形県PTA連合会の活動に、暖かいご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

また、それぞれの学校、地域において、子どもたちを育む環境づくりに、ご尽力を頂いておりますことに心から感謝を申し上げます。

平成二十四年度を振り返ってみますと、社会全体としては、集団登校中の児童が犠牲となる交通事故やいじめの問題、指導者による体罰の問題等、心を痛める出来事が相次いで

発生し、改めて、「子どもの命」を守り、安心安全な環境づくりの必要性を再認識した一年でした。

保護者にとつて、子どもが、笑顔で、「いってきます」「ただいま」を言ってくれることは何よりも嬉しいものです。

子どもたちが、安心、安全に、そして健やかに成長できる環境を築いてあげるのは、私たち大人の責任と認識し、「そのために何ができるのか」をみんなで考え、活動しているのが山形県PTA連合会です。

毎年、開催している研修大会は、今年度は、東北大会を兼ねる形で、「第四十四回東北ブロック研究大会 酒田・鮑海大会」として開催されました。

「築こう、笑顔溢れる未来を 育もう、公益の心を つなごう、家庭・学校・地域を」という「公益」をキーワードとした大会主題を掲げ、東北各地から二千名近い会員が集い、

盛大に開催されました。

震災から一年半を経た本年、様々な思いを胸に集った仲間が、ともに学び、明日からの活動に向けて、決意を固めることができた感動の大会であったと思います。

長きに渡り、このように素晴らしい大会の準備をしてくれた酒田・鮑海の実行委員会の皆様に、心から感謝を申し上げます。

また、母親委員会では、日ごろ、子どもたちと接する時間の多い母親ならではの視点から、子育ての悩みや課題の解決に向けて活動をしました。

恒例の教育委員会と高校PTA連合会との合同懇談会では、新たに制定された「教育の日」をキーワードとして、テーマに沿った意見を交換し、有意義な懇談会となりました。

このように、教育委員会、高校PTAという互いに立場が違う中で、意見を交換し、絆を深めることは、非常に有益なことだと考えています。

一年間を振り返ると、課題が山積した一年でしたが、皆様の暖かいご支援、ご協力で、無事、予定の活動を終えることができましたことに、心から感謝を申し上げます。

また、本年、得難い機会をいただき、日本PTA全国協議会の会長を

務めさせていただきました。

東北ブロックの会長、山形県と山形市の会長という役割を兼務したため、例年がないご苦労をおかけしましたが、皆様より、暖かく応援をいただいたが、感謝の念でいっぱいです。この紙面をお借りして、心から感謝を申し上げます。



日P全国研究大会 (H24. 8.25)  
全体会で挨拶する武田会長

日P年次表彰式 (H24.11.22) で表彰された県P副会長さんたちと記念写真



# より充実した学校経営のために ～全員参加のPTA～

寒河江市立寒河江小学校 校長 板坂 憲助

**「枝**

垂れ柳」をシンボルとする伝統

ある寒河江小学校にお世話になることになり、その職責の重さに身が引き締まる思いで四月を迎えました。PTA

役員の方も、新スタッフでスタートしました。校長として誰しもが、保護者や地域の皆様よりご協力とご支援をいただきながらよりよい学校経営と願うものです。

そんな折、白田晋一 新PTA会長を中心に、今年度のPTA活動のスローガンを『夢と笑顔があふれる未来のために』全員参加のPTA』という言葉に基づきスタートすることになったのです。明日を担う子どもたちの「夢」や安心感や満足感の表れである「笑顔」が溢れるようにしたい。更に、友情や絆を育むことのできる良質で安全な環境を全P

TA会員の汗を結集してつくっていききたいという想いをスローガンに込めてあるそうです。校長としてこれ以上ない頼もしさを感じているところです。

更に、本校の自慢できるPTA活動の一つに、年度当初に各学年のPTA活動の始まりとして、校長の講話を聴いて親睦会を開催することです。五月から六月にかけて、地区の中央公民館を会場に計六回、全PTA会員の約六割に当たる会員と膝を交えて教育談義に花を咲かせるのです。このことが互いに連携を図る上で効果があると思っています。

他に親子で一緒にベルマーク収集活動等、地域の宝である子どもたちの教育のために、学校と家庭・地域とが持てる力を思う存分発揮できるように情報交換を密にしながらより充実した学校経営を目指しているところです。

## 感謝のことばと、これからへの願い

東北ブロック研究大会 実行委員長 三浦 哲哉



**こ**

の度の東北大会では、関わっていただいた全ての方々に、それぞれの立場を深く理解し、懸命にご協力していただいたおかげで、とても円滑な大会運営をすることができました。誠にありがとうございました。

ご多忙の中ご来場いただいた県知事はじめご来賓の方々、記念講演や基調講演で熱弁をふるっていただいた講師の方々、分科会を盛り上げていただいたコーディネーターやパネリストの皆さん、多額のご支援をいただいた酒田市と遊佐町、学習バスの提供などをいただいた酒田市・遊佐町教育委員会、何もわからない中で一からご指導してくれた山形県PTA連合会事務局、大会に彩りを添えてくれたアトラクションの子どもたち、全体会の最初から最後まで頑張ってくれた二名の手話通訳者、明るく元気だった売店のスタッフ、そして運営委員会や事務局をはじめ四百名を超す協力を集め様々な形でご協力くださいました酒田市・飽海郡PTA連合会、その他書き記せないほど多くの方々に、年度を過ぎ人が入れ替わりながらも、公益の心で支えていただきました。

大会の成功とは、当日の運営だけではなく、終わった後に残すことが

できたものの価値で決まるものだと思います。私たちは酒田・飽海地区PTAの活性化と協調を目指して、四年前に全PTA参加型の組織作りから始めました。できるだけ多くの方々にご理解を得られるようにと話し合いを積み重ねて参りましたが、会議は深夜まで及ぶなど数々のご苦労をお掛けしました。しかし、時間や手間のかかる方法だからこそ、お互いの中に他校PTAとのかかわりや信頼関係など多くのものが残ったのではないのでしょうか。東日本震災の際には、秋田大会同様一日開催にすべきとの案もありましたが、被災された会員の痛みを感じながらも例年通りの大会をできるだけ早く開催することこそが東北PTAが目指す復興への第一歩であり、大震災を乗り越えるため今大会に課せられた命題と確認し合ったことを今でも鮮明に想い出すことができます。

私たちPTAは納豆のようなものだと思えます。この大会で得た感動や事例は、まだ一粒の豆にしか過ぎません。東北各地で、持ち帰っていただいた豆が芽を出し花となり実となり発酵し、タレや薬味と一緒に一生懸命にかき混ぜて、たくさんの糸が出たふんわりとした食感のおいしい納豆になることを願っております。

# 山形県PTA母親委員会の活動報告



県PTA母親委員長  
高橋 裕美

**早**

いもので一年間の活動を振り返る季節となりました。皆様を支えられ、活動できたことに心より感謝申し上げます。また、それぞれの郡・市PTAにおかれましても、活発に活動が行われましたことにお礼申し上げます。

今年度も母親委員会のテーマ「命の尊さ 大切さ」のもと、活動を行ってまいりました。県の定例母親委員会での研修では、「月経教育におけるピア・サポートとは」と題して、県看護協会の山口先生をお迎えして学びました。ピア・サポートとは、様々な悩みや不安を抱えた人を同年代の仲間同士で支援・援助しあう活動のことで、学校教育の中でも取り入れられ、子ども同士が助け合う活動

として知られています。子どもにいちばん近い存在である母親が「子どもの心とからだ、学校生活などについて話してみませんか？」というように、少人数でも集まったら話ができる、そんな親同士が支え合う活動が展開されればと思います。特別に集まることなく、授業参観の後、母親委員会をした時など、集まれる人たちで、語り合ってみませんか？参加した母親委員の皆様から、「話をするのですっきりした」「同じ悩みを共有することができた」など様々な感想もいただいております。母親委員会は、今後も家庭の教育力の向上にむけ、保護者同士が親として学び合うことを大切に活動していきたいと思えます。



## 各地区のおもな活動報告

### 第一回母親委員会 五月三十日

- ・ 正副委員長の選出
- ・ 活動計画及び情報交換

### 第二回母親委員会 九月十九日

- ・ 各研修大会の報告及び情報交換
- ・ 研修「月経教育におけるピア・サポートとは」

講師 山口節子氏

### 第三回母親委員会 十一月九日

- ・ 「母親委員会だより」作成案
- ・ 県P研修大会等の報告
- ・ 情報交換

- ・ 県教育委員会と県P連・高P連の合同教育懇談会参加

### 第四回母親委員会

平成二十五年一月二十九日

- ・ 「母親委員会だより」について
- ・ 今年度の反省及び情報交換

### 《山形市》

- ・ 母親委員会 年二回
- ・ 拡大母親委員会

「親は知らないスマホとSNSの闇」  
きちんと知ろう！実態と危険性」  
講師 高橋 謙一氏

・ 「マザーズねっとわーく」発行

### 《上市市》

- ・ 母親委員会 年一回
- ・ 研修会・情報交換 年一回

「子どもの変化・SOSを感じとる目を！」  
講師 佐藤 秀実氏

### 《天童・東村山地区》

- ・ 母親委員会総会（地区小中Pから一名以上出席）
- ・ 母の集い「子どもの成長のために親がで

きること」～産業保健の現場から見えてくるもの～ 講師 東谷慶昭氏

### 《西村山地区》

- ・ 母親委員会 年三回

「子どもたちの安全のために」  
～サイバー犯罪～ 講師 安達美由紀氏

### 《北村山地区》

- ・ 母親委員会 年一回
- ・ 「母親委員会だより」発行

各市・町単位で活動

### 《最上地区》

- ・ 定例母親委員会 年二回
- ・ 地区母親委員会全員研修会 一回

### 《米沢市》

- ・ 母親委員会 年四回

※活動報告・計画・役員選出・情報交換講演会（二回）

### 《東置賜地区》

地区P代表母親委員一名が県P母親委員会に出席しています。

### 《西置賜地区》

- ・ 母親委員会 年三回
- ・ 地区PTA交流会・講演会協力

### 《鶴岡市》

- ・ 母親委員会 年二回

「気づく目と伝える心を」  
講師 渡邊ゆみ氏

・ 母親委員会だより発行

### 《東田川》

- ・ 母親委員会 年二回

### 《酒田市》

- ・ 母親委員長等会議 年二回（情報交換・講演等）
- ・ 東北ブロック研究大会酒田・鮎海大会への協力

### 《遊佐町》

- ・ 母親委員会 年三回
- ・ 母親委員会研修

「母親委員会だより」発行

# 「家庭・学校・地域のかけ橋としてのPTAの役割を考える」 ～「やまがた教育の日」制定の意義について考える～

予想以上の速さで情報化社会、国際化社会が進展する中、子どもだけでなく大人もその対応に迷うことが多々あります。変化の激しい時代を主体的に逞しく生き抜くためには、大人である我々も共に学び成長していく必要を感じます。このたび山形県教育委員会が「やまがた教育の日」を制定したことは、そうした意味でも時宜にかなったことであり、新たな未来を切り拓くキーワードである「教育」について、県全体で考えるきっかけを与えてくれたと思います。

はじめに、県PTA連合会長沼建理事と、県立長井工業高等学校PTA副会長高橋早苗さんより話題提供がなされました。

## 〈視点1〉家庭や学校、地域との連携をどのように進めていくか

### ◎新庄小の取り組み

指野野川水辺環境推進協議会：小中学校、高等学校、町内（地域団体）等、多くの方を巻き込んだ事業。その中で、子どもたちは河川水質検査、小中ペアになりゴミひろい、地域の方に草を刈ってもらい、その草の片付け。地域の虫の会、コスモスロードの会と一年を通して指導してもらいながら活動。水辺のコンサートとして中学校吹奏楽部が演奏、小学校が合唱。山大生との交流など。

環境教育を推進している市内の小中学校が実践発表会を開催：かむてん子ども環境サミット。

### ◎長井工業高校の取り組み

― 地域を潤す源流となれ― スローガンのもと、地元根づく人材育成を目指して行っている。地元就職希望者が多く、企業市と連携し、PTA OBに協力してもらっている。

- 酒田産業フェアに参加し、名詞作りや情報提供等の手伝いをしている。
- 地域の祭りに5・6年生が御輿の担ぎ手として参加。
- 地域の先生として、総合学習の時間に生け花やつりを習っている。
- 警察・地域とのネットワークの会がある。
- あやめ祭りに、高校生が駐車場誘導係りや花摘み娘として参加している。
- 文化祭の模擬店に、母親ネットワークにより多数参加し、手伝ってもらった。
- 昨年3つの中学校が統合し、地域とのコミュニケーションを大変難しく感じている。

る。

- 統合の検証でアンケートをとったところ、中学生の地区との関わりが希薄になった。
- 統合してから、公民館のボランティアを大変苦労しながら経過があり今のところ模索中である。
- 置賜農業高校は、高校で初めてサントリー賞を受賞。農と食に関した多彩な活動で地域活性化に貢献した事を評価される。

● 地域との関わりは、子どもたちに自分達の問題として考えさせ、地域に参加し動いていくようにした方が、学校全体で行うよりも活動が長続きする。

## 〈視点2〉「学び続けるPTA」を目指し、PTA活動のあり方について

### ◎新庄小の取り組み

「1PTA1活動」として、今年からやれる事をやる範囲で活動してもらっている。

- 核家族が多くPTA活動に参加できない。
- PTA活動に出来ない人はやむをえない。無理をしないで、肩肘張らないで楽しくやった方がいいと思う。

### 〈視点3〉その他

- 高校生も小学校や幼稚園に行き、読み聞かせをする場面が増えている。参加した生徒には優しい気持ちで育まれている。
- メディアとの付き合い方：テレビを消して家族との時間を共有しようという取り組み7割から8割に増えた。

### ◇いじめをどう考える

いじめは広範囲でトラブルがくぐられている。犯罪からいやがらせ、ちょっとしたひやかし。ちょっとしたいじめも受けている子どもにとってはどうなのかというものが、いじめかどうかの判断基準と

文科省は言っている。

- 小学校より中学校、中学校より高校と大きくなるにつれだんだん言わなくなる。
- 集団（友達）の質つながりの深さがあれば、それを糧として、のり越えられる。

● 人間関係のトラブルは社会で生きていく上で必ずある。トラブルといじめとの境は難しいが、精神的な強さ、我慢強さ、免疫力、体力をつけることが大事。

いじめはどの学校にもあるはず。ないと油断している方が心配。

県PTA連合会会長武田岳彦会長  
PTA百あれば百通りのやり方がある  
いいと思う。「教育の日」も自分達の出来る事を考える事が大事。

県教育庁普間裕晃教育次長

「いじめ見逃しゼロ」SOSはすぐに出ない。それを見逃さないように県あげて呼びかけたい。学校・家庭・地域、全てに共通して関わりどの立場にもいるのはPTA。この中核にいるPTAと共に関わり作り、関わり作りの仕掛け作りを取り組み、よりよい土壌が出来ていくのではないか。

お二人の方からお言葉を頂き懇談会を閉じました。

文責：県PTA連合会理事

（副母親委員長 深瀬千香）



# 山形県PTA連合会「親子読書推進委員会」

## 親子で読書 深める絆 ～本を読む子は かならず伸びる～

山形県PTA連合会では、親子読書をととして生涯学習を進め、親子で学び、親子のコミュニケーション活性化により、親子の絆が一層深まり、子どもの学力も向上することを願い、この運動を推進しています。

### 「親子読書の日」3原則

- ・20分間はテレビを消してゆっくり読書
- ・家の人みんなで楽しい読書
- ・読書ではじまる親子のコミュニケーション

## 平成24年度 山形県PTA連合会「親子読書推進事業」 「子どもが親と読みたい一冊」「親が子どもに伝えたい一冊」抜粋

### 1 小学生が選んだ一冊

いのちのおはなし

日野原重明 著（講談社）

舟形小3年 安達 暖人

いのちって何？生きているとはどういうことか？ぼくは、いのちは時間だと分りました。

きつね小僧

星 新一 著

和田 誠 絵（理論社）

山一小4年 古澤こころ

はらはらドキドキする結末。最後まで予想のつかないおち。私はそれがとてもおもしろいです。私もお母さんと読んでみてとても盛り上がり一週間ぐらいは、その話題になり、かなり親子の絆が深まったと思ったので選びました。

森のお店屋さん

林原玉枝 著

はらだたけひで 絵（アリス館）

寺津小4年 太田 陸都

ぼくが赤ちゃんくらの頃、ずっと何回も読んでもらっていたから、また親といっしょに読んでみたいと思いました。

芥川龍之介 著

寺津小5年 稲村 尚樹

最近いじめで、人が自殺しているというのをテレビで聞きました。そこでいじめをなくすためには、まず友だちをたくさんつくっていじめをなくしてほしいので、「学校友だち」というのがピッタリだと思ってこの本を選びました。

### 2 中学生が選んだ一冊

華鬼 終焉とはじまりの乙女

梨紗 著

カズキヨネ 絵（イースト・プレス）

米沢五中2年 井上 陽菜

人を愛すること、愛されること、人をたよること、たよられること、人生には不幸がみちあふれ、やっとな手に入れた幸せはすぐれおちてゆく。もう誰も失わないために、花嫁が幸せになるように華、神楽、京也が戦いつづける。改めて人を愛する心や親という存在について考えさせられました。人生は「幸せ」でなりたらず「不幸」をかさねていると思いました。そして少しの幸せを大切にしたいと思いました。だからこの本を選びました。

ドッグシエルター

今西乃子 著

浜田一男 写真（金の星社）

明倫中2年 海藤 遼

親からの愛情を受けていない少年院の子どもが、同じく飼い主から愛情を受けていない犬の信頼を取り戻すと言う内容。自分はこの本を読んだとき、親の愛情を感じました。感謝の気持ちとして一緒に読みたい。

空をつかむまで

関口 尚 著（集英社）

明倫中3年 三上早紀子

トライアスロンというスポーツを通して、3人は少しずつ成長していくという物語である。ピュアな心情や感情がむき出しになったりなど、思春期の心の揺れがとても上手に描かれていると思ったか

ら。3人の友情はとても深くなっていたと思う。友情や青春・汗や涙に正面から向き合える、そして、最後には感動が心に残る。そんな本だった。

### 3 親・教師が選んだ一冊

ボッコちゃん

星 新一 著（新潮文庫）

天童中部小P 居鶴多詠子

私は小学校3年生の時、この本に出会ったおかげで本の楽しさを知りました。本の中にはユーモアと不思議と哲学がぎっしりつまっています。ショートストーリーなので、どんなお子さんでも1編は読めると思います。山形県の子どもたちも是非一読して頂きたいです。

どろぼうがっこう

加古里子 著（偕成社）

長崎小P 高橋 裕美

私が保育園に通っていた頃、先生が読んでくれた事を今でも覚えている程、ぬきあしさしあし忍びあし、のフレーズがインパクトのある楽しい絵本なので選びました。年を経て子どもに読んであげられる喜び、読む時はどろぼう学校の校長先生になり切って読みます。末っ子に読んでいるとそれに気づいたまん中のお兄ちゃんも寄ってきて聞いてくれます。

百まいのきもの

エリノア・エステイブ 作

ルイス・スロポドキン 絵

山一小P 武田 真紀

皆からばかにされ、からかわれるワンダ。いじめているつもりはないクラスの

女王様の存在のベギー。それがいじめにしか見えないながらも次は自分が……と思うとかばう勇氣の出ない貧乏人のマデイ。この本は一九五一年とかなり古い本ですが、いじめのジャンルに分類されるでしょう。時代や背景やお国が違っても、いじめ」というものは未来永劫なくならないものなのか……登場人物たちの心の動きを感じ取ってもらえたらいいなと思います。かなり昔の本だし、絵も地味なので、なかなか手に入らないのではないかと思いい、あえて推薦致しました。

青い鳥

重松 清 著 (新潮文庫)

大富中P 阿部 美紀

思春期と言われる今だからこそ娘に読んで欲しい一冊です。信頼できる大人はいつもあなたの隣に寄り添ってあなたのちからになってくれる。どうか信頼できる人を見つけ、自分をさらけ出し葛藤し成長して欲しい。孤独を感じたら、力になってくれる人が必ずいる。この作品は、ただ生徒に寄り添う事で、生徒に人を信じる事や、自分と向き合う事を教えてくれるすてきな先生のお話です。学生のうちに是非自分の「ムラウチ先生」を見て成長して欲しいと思います。

だるまちゃんてんぐちゃん

加古里子 作 (福音館書店)

富士見小P 沼田 宏子

けんすけを産む前、ひどいつわりで入院中、入院児の為に院内図書館がありました。そこで見つけたのが、「だるまちゃんてんぐちゃん」。

と同じものをほしがらるだるまちゃん。家中のものを出してくれ、それを探してくれるお父さんだるま。最後は、どう考えても無理そうなてんぐちゃんと同じ「鼻」が欲しいと言いついてしまった!! さあ、お父さんだるまは、どうする!! ……お父さんだるまは、家族みーんなを巻き込んで、みんなも自分も楽しみながら、だるまちゃんの願いを叶えてしまうのです。もうすぐ始まる子育てを、頭で考えるより、まずは楽しもう。子どもといっしょに。パパとそんなふうに話しました。この本は、これから産まれてくるけんすけと一緒に毎日を楽しもうと、私に決意させてくれた本なのです。

タンポポのあの日をわすれないで

光丘真理 作

山本省三 絵 (文教出版)

寺津小P 鈴木 裕美

東日本大震災をテーマにした本で、涙なしには読めません。震災の映像や記事はたくさんありますが、この本は子どもたちにぜひ読んで欲しいと思います。がれきの間からたくましく咲くタンポポに子どもたちの笑顔や明るい未来を重ね合わせて、みんながずっと笑顔でいられますように」と祈りたくなる一冊です。



## 「親子読書デー」を実践して

山形市立第一小学校奨学会会長 鈴木 康彦

「山一小的子どもたちはよく図書室で本を借りてくれますよ。」

毎年図書の本をご寄付いただいている団体の会議で先生方から必ずお聞きしていました。充実した図書の本を利用して子どもたちはいろいろな本に出会い、お互いにもしるかった本の紹介を図書室の前に貼っただけです。

小六の長女は借りてきた本を母親に「この本を読んでみて」とよく渡していました。一冊の本がその日の親子共通の話題を作り新たな会話を作りだしました。

彼女が私たちに伝えたい本があるのなら私たちからも読んでもらいたい本を伝える機会があればと思っていました。

幸い山形県PTA連合会の提案に「親子読書の日」と「子どもが親と読みたい一冊、親が子どもに伝えたい一冊」がありました。

そこで昨年度まで当校で実施していた「ノーテレビ・ノーゲームデー」を発展させ、「豊かな心を育む親子読書」を二十四年度の重点事業の一つとしてまいりました。一月に一日の「親子読書デー」を設け、更に夏休みの課題に子どもたちが本を読み、イメージを絵画にする読書

感想画を加えていただきました。そして子どもたちと共に奨学会会員の皆さんに「子どもが親と読みたい一冊、親が子どもに伝えたい一冊」を募集させていただきました。

おかげ様で読書感想画はほぼ全員から、「伝えたい一冊」は子どもたちから一六五冊、そして会員のみなさんから一七冊の推薦書をいただきました。

読書感想画の審査には奨学会役員も加えていただき子どもたちの感性の豊かさにはただ驚くばかりでした。また、「伝えたい一冊」については、後日まとめていただいた資料を頂き読ませていただきましたが、親子共にたくさん本があるものだと感心しました。

最近紙ではなくディスプレイで読書をする時代になってきているようですが、やはり本のページをめくる作業、紙のにおい、手触りを感じながら本を読むということを大切に一生つきあっていると、一冊を見つけていきたいと思っております。

この機会を与えて下さった皆さんに感謝をしたいと思います。やっぱり子どもと本を通じたつきあい方も楽しいものです。

# 会員による自主・自立の PTA活動をめざして

東根市立東根中部小学校PTA会長 原谷洋一

## 一 はじめに

本校は、今年で創立十五周年を迎える比較的新しい学校です。環境的にも東根の中心街を学区とする児童数五百名をこえる大規模校で、家庭環境も従来からの在住者に加えて、新興住宅地、アパートへの居住者、さらに他市町や他県からの転入者と同様です。そのため、住まい周辺の近隣関係も希薄で、家庭的な問題（就学援助等）を抱えている児童も非常に多い。このような状況であるがゆえに、地域と学校、家庭が一体となった子育て環境の整備は急を要する課題でありました。

また、本校は、平成十年度に東根小学校の大規模解消による分離、さらにその後の児童数の増加に伴う大森小学校の新設による分離と、これまで二回の大きな学区再編を余儀なくされてきました。PTAとしてもこれらの学校課題に対して組織再編など、大きな変革を通して対応して

きましたが、一貫して「自立したPTA」を目指してきました。

## 二 特色のある取り組みについて

(一) 自立したPTAの幹となる組織

- ① 総務部員の六年間継続制  
総務部員は六年間継続制を導入  
PTA活動の中核を担う一人としての自覚と活動の円滑な運営実施
- ② 母親の自主性尊重の組織づくり  
総務部付けで母親サークルを作り  
会員の親睦を図るティーサロンの運営などを自主開催
- (二) 学習支援への取り組み

- ① 全校朝会での保護者講話の実施
- ② PTAを母体にした読み聞かせ会の開催（年十二回）
- ③ 体験交流学習への支援  
全学年児童が複数の体験教室（工作やお茶など）から選んで活動に参加。保護者も活動の講師として参加

(三) 家庭教育力向上のための実践  
① 「心」「食」「体」をテーマとした  
自主研修会の毎年開催

② 学校保健委員会と連携した、「アウトメディア・チャレンジ」の活動を年二回実施

(四) 安全な環境づくりの実践  
① 交通安全標語看板の作成と掲示  
② 子ども会育成会と連携した冬期間の登下校路の点検と整備

③ 全PTA評議員並びに教職員で分担した週一回の巡回パトロールの実施

④ PTA生活部による休日の学区内大型店舗の月一回の巡回指導

⑤ 東根一中学区三校の連携重視

\* 三校合同総務部会の開催

\* 東根小との親子交流活動

\* 警察関係者も含む東根一中学区情報交換

⑥ あいさつ立哨の複数回実施

(五) 会員の意識や意欲を高める実践

① 各学年評議員で企画し、休日等を利用して親子ふれあい行事を全学年で実施

例 一年生・親子芋煮会

六年生・親子学校宿泊体験

② PTA活動に、全保護者がかかわりやすくするためのアプローチ

\* 震災復興を願うメッセージ看板の

作成とさくらんぼマラソン全校応援の実施

\* PTA親睦ボウリング大会の開催

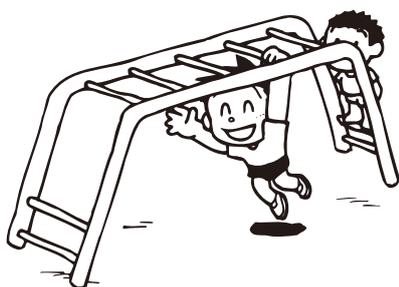
\* PTAによる学校理解のための

「東根中部小保護者ナビ」の作成と全保護者への配付

\* 年三回の広報誌「大地の芽」の発行

## 三 成果と今後の方向性

学校と保護者が児童の成長や活動環境の課題を共有し、地域も巻き込みながら自主自立の思いで活動してきたことが、大規模校ながら不登校児童もなく、全児童とも充実した学校生活を過ごすことにつながっています。また、会員相互の親睦の輪も広がってきています。今後は、保護者一人ひとりがより参画意識を持てるような事業企画の実施や、今後増加する児童並びに保護者が参加しやすいPTAの雰囲気づくりに、更に努力してまいります。



## 一 学校とPTAの概要

本校は、山形市内の中心部山形駅西側に位置し、生徒六五三名が学ぶ創立六十五周年の学校です。

子どもたちは、校訓である「自主自立」の精神のもと自らの手で三中をつくる意気込みで、生徒会組織を「校友会」と命名し、歴史と伝統に誇りを持ち、県内一の学校を目指し日々努力しています。

PTA活動においては「感謝の心を持って活動しよう」をスローガンに、学校・家庭・地域が一体となったPTA活動を展開しています。

## 二 特色ある取り組み

### (一) 取り組みのきっかけ

平成二十年度に山形市が実施した「生活リズム健康調査」で、市内中学生に比較し三中生の最近の健康状態が「良くない」、「あまり良くない」が多く、体の状態や気持ちの面で学年が上がるごとに「頭が重い」、

「だるい」などを感じる割合が増えていることがわかりました。

また、思春期と呼ばれる中学生の時期は、成長が著しく、体と心のバランスを保つことが難しい時期でもあり、スケジュールが忙しくなり、規則正しい睡眠や朝食など日々の生活リズムがおろそかになりがちであることから、こうした点を少しでも改善することを目的に、学校保健委員会と連携し平成二十一年度より生徒たちの健康増進を図るための「我が家の〇〇運動」を実施しています。

### (二) 取り組み内容

夏休み前に各家庭で子どもたちと家族が話し合い、夏休み期間中「家族と一緒に食事をつくる」、「家の手伝いをする」など健康増進や成長につながる取り組みを決めてそれぞれ実践します。実践にあたっては、「気軽に、楽しく、簡単に」をキーワードに①身近で手軽なものにチャレンジし、無理のない範囲で実施す

る。②家族とのコミュニケーションが進むよう、楽しく実践する内容としました。

また、今後の取り組みの参考にしていただけよう、夏休み後に各家庭で実施した内容や日頃感じている健康面の疑問や悩みなどを報告いただき、とりまとめ結果を全家庭へ配布しています。

### (三) 今年度の取り組み結果

今年度の各家庭からの報告では、「家族と食事をつくる、一緒に食べる」、「早寝・早起き」、「身の回りを片付ける」、「兄弟の家庭教師をする」などそれぞれ工夫した取り組みの報告がありました。

三中生からは「家族とやると楽しかった」、「家族との会話が増えた」、「仕事の流れの大切さがわかった」など感想や反省があり、保護者からも「意外に料理が上手でびっくりした」、「ぜひ来年もお願いします」などの意見が寄せられました。

また、報告様式の自由記載の項目では、「健康だよりで栄養指導的なものを掲載して欲しい」、「睡眠のことを特集して欲しい」など数多くの御意見も寄せられました。

こうした結果をとりまとめ、各家庭へ配布し今後の取り組みの参考にしていただくとともに、学校保健委

員会で内容を検討し校医のアドバイスを受けながら、保健だよりなどで生活リズムに関してのアドバイスを掲載しました。

## 三 成果と今後の方向性

本取り組み自体は、きっかけづくりを目的としたものですが、取り組みを通じ寄せられた各家庭からの意見を基に、今年度、「食で育てる頭と身体」と題し、パイオニアレッドウイングスの栄養トレーナーの山口喜代美先生を講師にPTA親の学び研修会を開催しました。このように、各家庭が求めている要望に可能な限り応えらるとともに、他のPTA行事と取り組みを関連付け、幅広い活動につなげているところです。また、校友会保健部にも取り組みの反省や改善点について意見を聞くなど、生徒たちへも積極的にアプローチを行い、協力しながらより良い活動に繋がっていくとともに無理のない、手軽で長続きする活動に努めていきたいと考えられています。



優良PTA文部科学大臣表彰

「我が家の〇〇運動」  
を実施して

山形市立第三中学校PTA会長 佐野 晃

この度、平成二十四年度「日本PTA全国協議会長表彰」とい名誉ある賞をいただき、これまでの活動に関わったすべてのPTA会員の皆様、先生方そして地域の皆様に深く感謝申し上げます。

### 一 はじめに

長沢小は舟形町の中心部より東に約六km、国宝の土偶「縄文の女神」が出土した西ノ前遺跡より東に約七kmの位置にあります。長沢地区は小国川沿いに戸数約四百戸あり縄文時代の遺跡が多い自然豊かな地域です。長沢小は今年度創立百三十八年を迎え、児童数は六十一名です。長沢地区は昔から教育熱心で家庭と学校、地域が連携した教育を行っています。PTA会員四十七名が一人一役を担い、副会長三名が各専門部（文化研修部 保健体育部 環境育成部 母親部）を補佐し、円滑で活発な運営を行っています。

### 二 特色ある取り組みについて

①「長沢家庭教育宣言」の推進  
平成十八年度から「よりよい習慣は一生の宝」を合言葉に生活リズムを整え、家庭学習習慣の確立や挨拶運動の推進に取り組んできました。よりよい生活リズムを確立するために、学校保健委員会に母親委員全員が参加し、その後各学級で具体的に活動の仕方を検討しました。

舟形町PTA教育懇談会や最上地区PTA研修大会舟形大会で長沢家庭教育宣言の趣旨を活かしたテーマで、生活リズムを整えながら勉強と運動（遊び）を両立する取り組みについて提唱し、改善に向けて検討することができました。

「大きな声で挨拶します」の実践のため、環境育成部が年二回、登校班挨拶コンテストを実施し表彰しました。元気のよい挨拶が響くと長沢地区の方々より声が寄せられています。

## 日本PTA全国協議会会長表彰

## 家庭やふるさとの良さを

## 実感できるPTA

舟形町立長沢小学校PTA会長 大場清志

「家庭学習をがんばります」の実践として年五回の家庭学習強調週間を設定し、学習と読書、ノーゲームデーに取り組み、効果を上げています。

②学校・家庭・地域の連携による山崎・長沢交流学習の推進  
二十六年目になる世田谷区の山崎小との交流学習は、山崎小PTAと

交流を深めるとともに、長沢小PTAの繋がりを深めます。子どもたちの深い感動が、この交流が貴重な自然体験・社会体験・生活体験の学習であることを伝えます。二泊のホームステイをしながら、両校の環境の違いを学ぶとともに、ふるさとや都会のよさを実感します。長年、PTAや地域の協力があつての交流学習です。五・六年の学年部長が正副実行委員長となり、ホームステイ、ボートでの川下り、長沢地区のウォークラリー、鮎つかみ（鮎焼

き）等の準備を進めています。長沢小PTAのOBのけやきの会や、山崎小交流学習支援団体メンズ、梅ヶ丘商店街との交流も長沢小PTAの財産です。昨年は山崎小PTAの依頼により山崎小で米作りを紹介してきました。

③地域で育てる放課後子ども教室「長沢子ども遊々塾」の推進  
十一年目を迎える「長沢

子ども遊々塾」は、地域の団体の持ち味を活かしながら長沢の自然環境を教材に、子育て応援・エンジョイする企画です。長沢親和会、町内会、婦人会、PTA、まちづくり課等の団体から構成され、PTA正副会長が実行委員として運営しています。年五回、自然散策や川下り、三世代グラウンドゴルフ、雪山そりすべり等を展開しています。今年の六月には荷渡権現に行き、山菜を採りながら、見晴らしのきく河岸段丘からふるさとの長沢を眺めました。

### 三 成果と今後の方向性

家庭やふるさとのよさを実感できるPTAの取り組みができました。平成二十五年度に舟形町の小学校が一校に統合しますが、PTAが連携し、よりよい教育環境を整えていきたいと思っています。

### 長沢家庭教育宣言

わたしは、

- あ あさ6時半までに起き、朝ごはんを食べます。
- あ あせをかきほど運動します。
- よ よる10時までに寝ます。
- い いえのお手伝いをします。
- お おおきな声であいさつします。
- か かてい学習をがんばります。
- お おうちでも親子で本や新聞を10分間読みます。



我が家では、今年をがんばります。  
長沢小学校PTAは、家庭教育と学校教育の二つがもたらした健全な子どもの成長を願っています。子どもが育つために、ふるさとを大切にするよう家庭で実践してまいります。 04.4.22

この度の受賞にあたり、これまでの活動にご尽力いただいたPTA会員の皆様、地域の皆様、そして、PTA活動を発展させてくださった諸先輩方に感謝申し上げます。この受賞を励みに、尚一層、子どもたちのためにPTA活動を進めてまいります。

## 一 はじめに

本校は、鶴岡市の市街地中心部の児童数増加に伴う学区再編計画に基づき、昭和五十一年に新設され、今年度で創立三十七年を迎える学校です。

今年度の児童数は、八一七名、PTA会員数は六二六名という大規模校で、「いのち」を大切にし、心豊かなたくましい子どもを育てよう』をスローガンとして会員相互の研修や教育環境の整備、そして何より積極的に活動に参加するPTAを目指して子どもたちの健全育成に努めています。

## 二 特色ある取組みについて

(一) 積極的に参加するPTA  
PTA会員全員が進んで学校教育やPTA活動に関わっていくことをねらいに、一五年前より学級の役員以外の会員に一人一役として学校行事などへの活動協力として、「協力ネットワーク」をお願いしています。一役の内容は、水泳教室指導員、スキー教室指導員、学校保健委員会協力員、運動会協力員、下校時パト口

ル協力員(セキュリティアイズ)など多様な範囲にわたり教育活動に直接結びついています。

(二) 「いのち」について学ぶ環境づくり  
市街地に位置する学校の子どもたち「いのち」について学ぶ環境や「いのち」に触れ合う場を設けていきたいという願いから、多様な環境づくりを行っています。

① 学校ビオトープ「ザリガニ池」  
二m×二〇mほどの人工池を造成し、ザリガニを中心とした生き物を放流しています。休み時間や放課後の子どもたちの憩いの場となつています。環境改善の取組みを毎年PTA会員や地域の方々と継続して行っているところです。

② カブトムシの幼虫飼育ゲージ  
昨年度から始めた取組みで、どんぐりの森と名づけた遊び場脇に飼育ゲージを製作し、カブトムシの幼虫二〇〇匹を放しました。

③ 子ヤギの飼育体験  
これも昨年度から始めた取組みです。子ヤギを借用し、二週間、飼

## 日本PTA全国協議会会長表彰

# すくすく伸びる子どもを育てる PTA活動をめざして

鶴岡市立朝陽第六小学校PTA会長 渡部 宏 一

育ふれあい体験の場を設定しました。あまりの人気で二回目の体験期間を設けました。

これら環境づくりに関する様々な活動は、現PTA会員有志とPTA会員のOBの方々の協力により行われている活動であり、「六小ダッシュユ村プロジェクト」として今後も継続発展していく予定であります。

(三) 安全を多面的に考えて  
自転車運転に関する安全意識の向上をねらいとして、昨年度より第三学年のPTA親子学級行事として自

転車教室を行いました。子どもたちの自転車運転を保護者に見てもらいながら、交通安全について親子で一緒に考える活動となっています。

また、PTAの取組みにより、全校児童へのヘルメット着用をお願いしています。現在、ほぼ一〇〇%の着用率となっています。

(四) 地域の方々と共に  
① スキー教室を支える会  
学校の教育活動充実のためPTA会員も指導者として協力していますが、地域の方々から広く協力を

得たいということで、今年度より「スキー教室を支える会」を立ち上げました。学校で保有しているスキー用具の台帳整備を行い、子どもたちのサイズに合ったスキーを貸出できるようしました。

② パワフルグリーン  
市の伝統的なお祭、「天神祭」に「パワフルグリーン」という団体で参加しています。保護者・地域の方々の力で子どもたちへの踊りの指導が一〇年以上続いています。地域の方々と共に歩むPTA活動が進行中であり、地域の方々のまなざしは温かく、関わりはとて深くなっています。

## 三 成果と今後の方向性

PTA会員のもつ多彩なアイデアと子どもたちの健やかな成長を願う会員・地域の方々の強い気持ちは、多岐にわたる取組みの大きな原動力になっています。

今後も、PTA会員の積極的な参加・子どもたちの体験や健やかな成長を促す活動の充実を図り、「ゆりのき」のようにすくすくと伸びる子どもを育てるPTA活動を目指して、更に努力して参りたいと考えております。



## 東北ブロック研究大会、酒田・飽海大会に参加して



山形県PTA連合会  
副会長

小林 俊一

「築こう 笑顔溢れる未来を、育もう 公益の心をつなごう 家庭・学校・地域を」を大会主題に、第四十四回目となる本大会が、酒田・飽海を会場に九月八日（土）から九日（日）までの二日間にわたり開催されました。

昨年度は、東日本大震災の影響で同大会が一日限りであったことを考えると、志を同じくする方々が集い研修する場として例年どおりに開催されることは、素晴らしいことであると実感できるものになりました。第一日目は、七つの分科会に分かれた日程になり、特別課題の「PTAの公益性」については開催地らしさを強調した特徴的なものでありました。私は、唯一遊佐町開催の第三分科会に参加しました。

分科会関係者の皆さんの

接待のお気持ちは、会場内の対応や分科会の進行は勿論のこと、会場到着前の道路での対応、駐車場での対応から、ひしひしと感じ取ることができ大変心地よく研修することができました。

内容も、実践を伴った発表ばかりで、統合二年目の私にとって、継続した活動が歴史と伝統を築き上げていくことを再認識することができました。また、那須栄一先生の座右の銘である「自然は人間の心と体をつくる神様である」という言葉に強く感銘を受けました。

第二日目の記念講演は、本県出身の石川牧子さんが「グローバルな時代だから日本語をー」という演題でお話いただきました。この時代だからこそ、日本語や日本文化が大切であるという目から鱗の内容であったことに加え、アナウンサー出身とは言え、講演終了予定時刻が1秒も狂わずジャストで終えたことにプロ意識を感じました。

そして、次年度開催県である福島県の感動的なアピールの中、フイナールを迎え終了しました。

最後に、私の所属する東置賜地区において平成三十三年度に東北・県大会が合同で開催される予定です。当地区においても、今大会のように開催できるように今から準備態勢を整えていく必要性を感じました。

## 日本PTA全国研究大会京都大会に参加して



山形県PTA連合会  
理事

大澤 泰雄

第六十回日本PTA全国研究大会京都大会が八月二十四日、二十五日に「いのち ころも ゆめく伝えよう つなげよう 育もう」をスローガンに開催されました。盆地で暑い京都の地に全国から八千名を超える人が集いました。山形からは二十名が参加しました。

一日目は二つの特別分科会を含めて十の分科会が開催され、本県からも七つの分科会に分かれて参加しました。分科会は、教育のポートのみならず、スポーツ、華道、書道、狂言、料理、キヤスターなど幅の広い分野からの講演者からそれぞれの立場で体験や家庭、子育て地域との関わりなど講演をいただきました。そして、各分科会の研究課題について発表が行われ参加者それぞれが自分の子育てな

どについて改めて考えることができただけではないかと思えます。

二日目は全体会が行われ、山形県PTA連合会長の武田会長でもある武田会長の主催者あいさつで始まり、田京都市長、そしてユニークな長門川京都市長の祝辞の後に記念講演となりました。

講演は、加藤登紀子氏の講演で「スマイルレボリューション」と題し歌を交えながらご自身の生い立ちから故郷への思い、東日本大震災支援のために訪れた被災地での出会い、親が子どもに望む思いと噛み合わない子どもとの心、太陽に温かく子どもたちを見守ってほしいという私たち親へのメッセージがジンジンと伝わる講演でした。そして被災地支援で出会った人々の苦しみの中で他の人を思いやる心、優しさを感じて作った「今どこにいますか」の曲は加藤さんがその活動で感じた状況など、思い浮かぶ感動する歌でした。

最後に「がんばろう日本！がんばろうPTA！」で子どもたち五〇〇人と参加者全員で大合唱を行い東日本大震災の復興の支援を引き続き続けていくことを誓い合いました。本県PTA連合会でも同じ東北の仲間として、PTAの仲間として「心のきずな61キャンペーン」に積極的に協力していきますので皆様のご協力をよろしくお願いします。

# 栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状がおくられましたのでご紹介いたします。(敬称略)

## 平成24年度 文部科学大臣表彰

### 1. 団体表彰

東根市立東根中部小学校PTA  
山形市立第三中学校PTA

## 平成24年度 日本PTA会長表彰

### 1. 団体表彰

舟形町立長沢小学校PTA  
鶴岡市立朝陽第六小学校PTA

### 2. 個人表彰

西村 浩一  
(平成23年度県P連副会長・山形市PTA連合会)  
渡邊 重信  
(平成23年度県P連副会長・西置賜地区PTA連絡協議会)  
阿部 雅之  
(平成23年度県P連副会長・酒田市PTA連合会)  
元木 朗博  
(平成23年度県P連副会長・北村山PTA連合会)

## 平成24年度 東北PTA連絡協議会表彰

### 1. 団体表彰

山形市立桜田小学校PTA  
南陽市立漆山小学校PTA  
高島町立二井宿小学校PTA  
酒田市立第三中学校父母と教師の会

### 2. 個人表彰

(表彰状)平成23年度理事・監事  
齋藤 忠雄 (上山市PTA連合協議会)  
高橋 徳彦 (天童・東村山地区PTA連合会)  
田宮 信明 (西村山PTA連合会)  
五十嵐昭彦 (米沢市PTA連合会)  
下平 英和 (東置賜地区PTA連合会)  
菊池 健一 (鶴岡市PTA連合会)  
大滝 義和 (東田川郡PTA連合会)  
三国 守 (飽海郡遊佐町PTA連合会)  
佐藤 淳一 (小学校教職員代表)  
島津 真一 (中学校教職員代表)  
繁村 弘美 (西置賜地区PTA連絡協議会)  
鈴木 義満 (天童・東村山地区PTA連合会)

## 平成24年度 優良PTA山形県教育委員会表彰団体

東根市立東根中部小学校PTA  
山形市立桜田小学校PTA  
山形市立第三中学校PTA  
舟形町立長沢小学校PTA  
南陽市立漆山小学校PTA  
高島町立二井宿小学校PTA  
鶴岡市立朝陽第六小学校PTA  
酒田市立第三中学校父母と教師の会

## 平成24年度 山形県PTA連合会会長表彰

### 1. 感謝状(県PTA連合会役員退任者)

西村 浩一 (山形市PTA連合会)  
渡邊 重信 (西置賜地区PTA連絡協議会)  
阿部 雅之 (酒田市PTA連合会)  
元木 朗博 (北村山PTA連合会)  
齋藤 忠雄 (上山市PTA連合協議会)  
高橋 徳彦 (天童・東村山地区PTA連合会)  
田宮 信明 (西村山PTA連合会)  
五十嵐昭彦 (米沢市PTA連合会)  
下平 英和 (東置賜地区PTA連合会)  
菊池 健一 (鶴岡市PTA連合会)  
大滝 義和 (東田川郡PTA連合会)  
三国 守 (飽海郡遊佐町PTA連合会)  
佐藤 淳一 (小学校教職員代表)  
島津 真一 (中学校教職員代表)  
繁村 弘美 (西置賜地区PTA連絡協議会)  
鈴木 義満 (天童・東村山地区PTA連合会)

### 2. 表彰状(郡・市PTA連合会より推薦)

武田 重也 (山形市PTA連合会)  
小山 裕久 (山形市PTA連合会)  
大貫 淳 (山形市PTA連合会)  
大槻 信也 (山形市PTA連合会)  
今田 政博 (天童・東村山地区PTA連合会)  
高橋 吉明 (天童・東村山地区PTA連合会)  
松浦 和人 (天童・東村山地区PTA連合会)  
片桐 隆 (北村山PTA連合会)  
村上 孝志 (最上地区PTA協議会)  
森 富広 (最上地区PTA協議会)  
小松 伸也 (最上地区PTA協議会)  
齋藤 生男 (鶴岡市PTA連合会)  
今井 努 (酒田市PTA連合会)  
佐藤 隆之 (酒田市PTA連合会)

## 平成24年度第34回全国小・中学校PTA広報紙コンクール

### 佳作

酒田市立松原小学校PTA「まつばら」  
酒田市立第三中学校「山河」

### 日本PTA奨励賞・山形県PTA会長賞

鶴岡市立朝陽第一致道会「致道」  
東根市立東根小学校PTA「けやきの窓」  
鶴岡市立西郷小学校PTA「西郷」  
三川町立押切小学校PTA「なの花」  
鶴岡市立朝陽第三小学校PTA「朝光」  
最上町立最上中学校PTA「PTAだより」  
山形市立蔵王第一中学校PTA「蔵王嶺」  
遊佐町立遊佐中学校PTA「けやき」

### 山形県PTA会長賞

山形市立鈴川小学校父母と教師の会「つくも」  
酒田市立琢成小学校PTA「琢成」  
酒田市立浜田小学校PTA「HAMADA」  
酒田市立亀城小学校PTA「ひなづる」  
鶴岡市立櫛引東小学校PTA「くろあざみ」  
新庄市立北辰小学校PTA「けやき」



# 日中友好少年少女の翼



田中つとむ

高橋中学校

(平成二十三年度)

日野 ゆず

私は最初、全国から来る人や言葉の通じない中国の人と仲良くなれるのか、とても不安でしたが、一日目の結団式でなかなか話しかけられずいたら、同じ班の人たちが声をかけてくれました。おかげで一気に緊張がほぐれて、普通に話せるようになりました。

中国の学生との交流会では、ペアの人と一緒にごはんを食べたり、曲を聴いたり、ゲームをしたりして、



楽しい時間を過ごしました。私は中国語が話せないので会話は英語でしたが、中国の学生は英語がとても上手で驚きました。

私はこの旅で国や言葉が違っても、気持ちに通じれば仲良くなれる事を実感しました。昨年震災で行けなかった中国旅行でしたが、今年行けて本当に良かったです。今までの他国や県に友達がいなかったため、とても良い機会を与えてもらえた感謝しています。

旅の終わりに、同じ班の人たちとの別れはとても寂しいものですが、実はその後も交流が続いていて、夏にはみんなでお出かけする予定です。日中友好少年少女の翼での出会いは、私にとってかけがいのないものになりました。これから先もいろんな出会いがあると思いますが、今回の体験を活かし、人との出会いを大切に、絆を深めていきたいと思っています。

## 五泊六日中国の旅

高橋中学校 (平成二十三年度)

秋葉 由香

私にとって少年少女の翼の旅は忘れる事のない思い出となりました。初めて行った中国は発展しており、

人の多さにびっくりしました。私が想像していた中国とはちがってにぎやかで元気な町でした。

私が一番印象に残っているのは万里の長城です。予想以上に高くまで続く道は、とても険しく、急でしたが、登りきった達成感と共に、きれいな景色を見る事ができました。とても気持ちが良く、心がいやされました。私達は他にもたくさん場所を訪れ、新しい発見などをしてきました。

中国の旅は自分の世界観が広がった有意義な旅だったと思います。そして何よりも楽しく、安全に帰って来れて良かったと思います。チャンスを与えてくださったみなさんに感謝します。

## 充実した五日間

山辺町立作谷沢中学校

三年 樋口 楓

僕はこの日中友好「少年少女の翼」に参加して、最高の仲間と共に充実した五日間を過ごすことができました。

お互い初対面の相手で、最初のうちは話が進みませんでした。しかし、日が経つにつれて打ち解け合い、みんなと仲よくなれるのかという不安

はすっかりなくなっていました。今では、手紙などでやりとりをする仲間になりました。

また、中国での様々な活動も充実した理由です。現地の中学生との交流では、英語がとても上手でとまどふときもありました。ですが、分かるまで教えてくれたり、自分の英語が通じて会話ができたときは、とても嬉しかったです。また、万里の長城で鼻血を出してしまったとき、同じ班の仲間や副団長の方、通りかかった中国の方々に介抱していただきました。そのとき、人の優しさを実感することができました。また、僕もそのような優しい人になりたいと思いました。

このように充実した五日間を共に過ごした仲間達、リーダー、参加させてくれた親に感謝します。またいつか会おう！  
謝謝！再見！

## 夢あふれる六日間

小国町立北部中学校

二年 伊藤 朋美

私はこの日中友好「少年少女の翼」に参加させていただいて、学んだことや心に残ったことが多くありました。

私は最初、友達ができるか、中国はどんなところなんだろうという不安などたくさんありましたが、実際にみんなに会って話してみると、とてもいい人達ばかりで、またその人達と中国に行ってきた、最初は不安だったのが、楽しさになりました。

そして、この旅行で仲良くなれたのは、女の子だけではありませんでした。中国では、万里の長城を登ったり、故宮博物館などを四班みんなで見学しているうちに、男の子とも話すようになったり、一緒に写真を撮ったり、とても仲よくなることができました。

また、中国の中学生の人達とも、たくさん交流をしました。一緒に昼食を食べたり、お話したり、ゲームをしたりしてとても仲よくなることができました。

今回の旅行は、私にとって心に残る、一生忘れられない思い出になりました。今回の経験をこれから的人生に活かしていきたいと思っています。

### 日中友好「少年少女の翼」に参加して

小国町立小国中学校

二年 藤坂 初穂

三月二十七日、私は初めて中国の土を踏みました。あまりにも高層ビル

ルやマンションが多く、今、急成長している国だということが、目に見えてわかりました。また、中国はほとんどの人が自転車に乗っていると思っていました。自動車のほうが断然多く、何回も渋滞にまきこまれま

した。  
今回、この日中友好「少年少女の翼」に参加をして、一番印象に残っているのが、中国の中学生との交流です。中国の中学生は英語が本当にペラペラでとても圧倒されました。中国語を少しか話せない私は英語で会話しようと思っていたのですが、あまりにレベルが高すぎて愕然としてしまいました。それでも中国の中学生は熱心に話しかけて下さり、私

もできる限り返事をしました。そして会話が成立したときは、喜びで一杯でした。  
この活動に参加して中国のレベルの高さをとても強く知ることができました。これからはグローバルの時代です。もっともっと勉強してグローバルの時代を生きていきたいと思えます。今回はこのような機会を与えて下さり本当にありがとうございました。



## 山形県PTA連合会安全互助会から

山形県PTA連合会安全互助会の運営にあたり、関係各位・保護者の皆様からのご理解ご協力に感謝申し上げます。

あの東日本大震災から2年が経過しようとしていますが、山形県PTA連合会及び安全互助会では、県内に避難されている被災者の方々に少しでも支援ができるよう、平成25年度も被災児童・生徒の会費を免除することになっています。また、各地区や単位PTAの様々な活動を側面からサポートできるようこれからも努めたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

### ……保険金支払い状況……

(単位千円)

| 傷害保険支払状況    |       |        |         |
|-------------|-------|--------|---------|
|             | 件数    | 児童・生徒  | PTA傷害事故 |
| 平成21年度      | 2,144 | 17,284 | 6,197   |
| 平成22年度      | 1,700 | 15,384 | 4,559   |
| 平成23年度      | 1,585 | 13,961 | 3,715   |
| 平成24年度(1月末) | 1,236 | 11,008 | 2,739   |

| 賠償保険支払状況    |    |       |
|-------------|----|-------|
|             | 件数 | 金額    |
| 平成21年度      | 59 | 2,134 |
| 平成22年度      | 54 | 2,540 |
| 平成23年度      | 60 | 3,453 |
| 平成24年度(1月末) | 56 | 3,323 |

※各年度に交通事故による重大事故が発生しています。

登下校や外出時は声を掛け注意喚起をお願いします。

※スポーツ活動中の事故が約35%を占めていますが、スポーツ傷害保険と両方に適用になります。

※今年度は高額の賠償事故が複数ありました。特に新年度が始まる4月5月は投石による物損が大変多くなります。

※自転車での人身事故も複数ありました。通学路の安全確保やルール・マナーを守りましょう。

日常生活での不慮の事故に備え安全互助会への加入を今後ともよろしく願いいたします。

# 県PTA研修大会北村山大会のご案内

尾花沢市PTA連合会会長 大 類 章

このたび、平成二十五年度山形県PTA研修大会北村山大会を尾花沢市及び大石田町で開催するはこびとなりました。

平成二十五年十月十九日（土）北村山PTA連合会の主管のもとに、「ふるさとを語り、夢を描く子どもを育むために」を大会の主題とし、サブテーマとして「時代に対応した活力あるPTA活動」を掲げ、県内より九〇〇名の参加を予定しております。

分科会は、「組織・運営の活性化を図るPTA活動」、「メディアの功罪を親子で共有するPTA活動」、「地域と子どものつながりを深めるPTA活動」、「子どもの基本的な生活習慣を確立するPTA活動」、「地域と共に子どものいのちをまもるPTA活動」の五つに分科会を予定しております。

各PTA会員の地域での実

践成果や、研修の取り組み方を持ち寄り、組織運営の強化、子育てや家庭教育へのサポート、メディア社会に対応した取組み、地域と子どもたちのつながり、地域の安全・安心な環境づくり、家庭・学校・地域・行政の連携活動など、広い視野から各課題を研鑽します。

また、情報などを交えながら交流と理解を深め、次の世代を担う子どもたちが希望を持って地域を愛し、自分の夢とともに命を輝かせていけるような大会を目標とします。時代に即した活動の実践、深化を目指しながら、今後のPTA活動に一役を担えればと準備を進めております。

本大会は、元気で活力のある大会にしたいと考えておりますので、皆様の多数のご参加、ご協力を頂きますようご案内申し上げます。

## 平成24年度 山形県PTA連合会役員名簿

|     |       |                |      |      |       |              |      |
|-----|-------|----------------|------|------|-------|--------------|------|
| 会 長 | 武田 岳彦 | 山形市PTA連合会      | 山五中  | 理 事  | 菅原 卓  | 東田川郡PTA連合会   | 三川中  |
| 副会長 | 新関徳次郎 | 山形市PTA連合会      | 大曾根小 | 〃    | 土門 憲  | 飽海郡遊佐町PTA連合会 | 吹浦小  |
| 〃   | 三浦 哲哉 | 酒田市PTA連合会      | 酒田六中 | 〃    | 板坂 憲助 | 県小学校教職員代表    | 寒河江小 |
| 〃   | 長沼 建  | 最上地区PTA協議会     | 新庄小  | 〃    | 佐藤 政彦 | 県中学校教職員代表    | 上南中  |
| 〃   | 小林 俊一 | 東置賜地区PTA連合会    | 川西中  | 〃    | 高橋 裕美 | 母 親 委 員 長    | 山九中  |
| 理 事 | 大澤 泰雄 | 上市市PTA連合協議会    | 上南小  | 〃    | 深瀬 千香 | 母 親 副 委 員 長  | 楯岡中  |
| 〃   | 荒澤 晃  | 天童・東村山地区PTA連合会 | 天一中  | 監 事  | 尾形 吉則 | 山形市PTA連合会    | 滝山小  |
| 〃   | 日下部一男 | 西村山PTA連合会      | 陵東中  | 〃    | 金山 康一 | 西村山PTA連合会    | 陵東中  |
| 〃   | 松岡 茂和 | 北村山PTA連合会      | 楯岡中  | 〃    | 山本 正博 | 山形市PTA連合会    | 金井小  |
| 〃   | 井上由紀雄 | 米沢市PTA連合会      | 米五中  | 事務局長 | 鈴木 幹雄 |              |      |
| 〃   | 今野 誠  | 西置賜地区PTA連絡協議会  | 長井小  | 事務局員 | 佐藤 静子 |              |      |
| 〃   | 難波 金一 | 鶴岡市PTA連合会      | 朝日中  | 〃    | 熊谷 慶子 |              |      |

## おしらせ

「心のきずな61キャンペーン」東日本大震災で被災された子どもたちのために、日本PTA全国協議会では被災児童生徒支援金を募集しています。

### 《支援金の使途》

◇大震災で保護者の双方または片方を亡くした児童生徒に一人一か月1万円を、十五歳の誕生日まで支給します。

### 《山形県PTA連合会の取組》

◇山形県PTA連合会では「書き損じ葉書」の回収を行い、これを現金化して日P事務局に支援金として送金します。年賀状の書き損じ葉書を回収しましたが、今後年間を通じた活動として継続します。

◇単位PTA及び郡・市PTA連合会事務局で回収していただいたものを県PTA連合会事務局に届けください。

◇県内各地で三月十一日前後に街頭募金が計画されています。ぜひ、ご協力下さい。

## あしがき

県P連武田会長は、全国組織の日本PTAの会長に就任し、全国各地を駆けめぐった一年になりました。お疲れ様でした。